特集論文

# 環境に関する研究開発の現状と展望

21世紀に求められる本格的な省資源・省エネルギーの循環型社会システムの実現は，“持続可能な発展”のためには必要不可欠となっている。昨年6月には循環型社会形成推進基本法が公布され，本年4月には家電リサイクル法が施行され，21世紀の社会システム・生産システムは，循環型・ゼロエミッション型への変革がいよいよ具体化してきている。

研究開発活動においても環境の視点を抜きにはできず，企業の存亡を左右すると言っても過言ではない。三菱電機では，環境関連技術として“環境創造技術”“環境調和技術”“環境支援技術”“リサイクル技術”の四つの分野で循環型社会を“共創”するための研究開発活動を行っている。

ここでは，クリーンエネルギーとして期待される電池技術（家庭用PEFC燃料電池，電力貯蔵用二次電池），オゾン応用の各種浄化技術，ゼロエミッションに対応する生産プロセス技術等の全体像をふかん（俯瞰）するとともに，当社の環境調和型製品開発のための基本的な考え方，材料評価技術，リサイクル技術開発を紹介する。

肥塚裕至＊　＊先端技術総合研究所 環境エネルギー技術部門統括（工博）